

精神看護学

精神看護学実習

精神看護学実習 2単位（80時間） 【3年次後期～4年次前期】

1. 精神看護学実習の目的

受け持ち患者が望む「生活」や「生き方」の実現を目指す過程をサポートする看護について考え、実践する能力を培う

2. 実習目標

- 1) 精神疾患・障害のある患者（対象）を理解することができる
- 2) 関わりを通して自己理解を深めることができる
- 3) 日々の対象の健康状態をアセスメントし、日常生活上必要な援助や診療の補助を見学または実施できる
- 4) 患者 - 看護師関係における治療的人間関係技術が実践できる
- 5) 精神看護における倫理観を養うとともに、その役割を考えることができる
- 6) 地域生活移行に向けたチーム医療とその役割を考えることができる

3. 評価の観点

目標	観点		
	知識・技能	思考・表現・判断	主体的に取り組む態度
1) 精神疾患・障害のある患者（対象）を理解することができる	○		
2) 関わりを通して自己理解を深めることができる		○	○
3) 対象の健康状態をアセスメントし、日常生活上必要な援助や診療の補助を見学または実施できる	○	○	
4) 患者 - 看護師関係における治療的人間関係技術が実践できる		○	
5) 精神看護における倫理観を培うとともに、その役割を考えることができる		○	○
6) 地域生活移行に向けたチーム医療とその役割を考えることができる			○

4. 実習目標・学習項目・学習方法

実習目標	学習項目	学習方法
1) 精神疾患・障害のある患者（対象）を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースからの情報収集 ・受け持ち患者と行動をとともにし、コミュニケーションを通して情報を得る ・発症の契機と入院に至った経緯を把握するとともに、症状や病態、治療（薬物・リハビリテーション）について理解する ・受け持ち患者のその人となり（居方・言動・ふるまい・人格など）に影響をおよぼしたと思われる環境（人や場など）について考える（社会的背景） ・受け持ち患者のニード・課題がどのようなものかを考える ・受け持ち患者が自分の将来をどのようにしたいと思っているかを捉える 	精神 1 患者理解記録用紙① 精神 2 患者理解記録用紙② 精神 3 患者理解記録用紙③ 精神 4 患者理解記録用紙④ 各用紙の小項目に沿って記入していく。不足している部分は、受け持ち患者または、指導者とコミュニケーション取り補っていく。
(2) 関わりを通して自己理解を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・対象との関わりの中で自己のコミュニケーションや考え方の特徴を知る ・自分自身の対人関係上の特徴や物事への取り組み方を考察する ・自己の考え方や感情の特徴に気づく 	精神 8 プロセスレコード 日々のカンファレンス
(3) 対象の健康状態をアセスメントし、日常生活上必要な援助や診療の補助を見学または実施できる	<ul style="list-style-type: none"> ①データベースからの情報収集 ②日々の関わりから状態を把握する ③対象に行われている日常生活援助を捉える ④対象に行われている診療の補助を捉える ⑤自己または病棟の看護計画に沿った実践をする 	精神 1 患者理解記録用紙① 精神 2 患者理解記録用紙② 精神 3 患者理解記録用紙③ 精神 4 患者理解記録用紙④ 各用紙の小項目に沿って記入していく。不足している部分は、受け持ち患者または、指導者とコミュニケーション取り補っていく。
(4) 患者・看護師関係における治療的人間関係技術が実践できる	<ul style="list-style-type: none"> ①人間関係技術の基本を実施する <ul style="list-style-type: none"> ・適切に視線を合わす ・他者の話題に関心を持ち、言語的に追跡する ・話すスピード・声の大きさや調子が適切である ・身体言語について配慮する ・傾聴・受容・共感的態度で患者に向き合う ・効果的な質問をする ・はげまし、いいかえ、要約により内容を明確にする ・感情・意味の反映をする ・沈黙の活用、心理的・物理的距離の把握など、待つ姿勢を示す ・関心を持ちつづける（拒否や暴言などがあっても、巻き込まれないで、自己のコントロールができる） ・時間と空間を共有する（傍らに存在できる） ・場の雰囲気 considering して関わる 	精神 8 プロセスレコード

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自尊感情を高めるように接する ②プロセスレコードを通して治療的人間関係技術を振り返る ・ 自分自身の対人関係上の特徴や物事への取り組み方を考察する ・ 相手の状況を思い描きながら、その時その場で見聞きしたことや自らの気持ちを相手に伝える手がかりを見いだす ・ 自分の対応が患者の安心感や信頼感につながったか振り返る ・ 自分の態度が患者の自尊感情の回復につながったか振り返る ・ 他者の助言を患者理解に活用する ・ 学生－受け持ち患者関係を考える 	
<p>(5) 精神看護における倫理観を培うとともに、その役割を考えることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権擁護の視点から保護室見学や身体拘束の実際を見学し、精神科における隔離・拘束の必要性やそれに伴う、身体的・精神的影響が理解できる。また、精神保健福祉法に基づいた措置や治療であることがわかる 	<p>精神7 最終カンファレンス資料 2 精神科病院の役割と機能 精神8 プロセスレコード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カンファレンスで学生間の学びを共有し、隔離・拘束が必要な患者に対する看護を考え、理解する ・ ストレスケア病棟の見学を通して、疾患別に応じた病棟環境を知り、それぞれに適した看護師の役割を知る。
<p>(6) 地域生活移行に向けたチーム医療とその役割を考えることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域生活移行に向けたチーム医療の連携・協働の実際から看護の役割を考える 	<p>精神7 最終カンファレンス資料</p>

5. 実習展開

1) 実習展開 臨地実習 72 時間 学内実習 8 時間

実習日	実習内容	カンファレス	学習課題
1 日目 8 時間	<p>病院、病棟オリエンテーション 患者の生活の場の理解 (病院・病棟の構造・特徴：閉鎖病棟、鍵、物品の管理、病室(隔離室・個室・総室)の違い) 治療プログラムや看護内容が分かる ホスピタリティを実践しながら患者と関わる</p> <p>受け持ち患者の決定(患者の同意確認) 受け持ち患者と適宜行動をともにする 情報収集(精神 1234- 患者理解記録用紙①②③④の観察の視点を参考に行う)</p>	<p>実習 1 日目で困ったこと (初日のみ 15:50 分に地下のミーティングルームに集合)</p>	<p>※事前学習課題の返却 2 日目の保護室・身体拘束の見学に向けて、事前学習内容の復習を行う</p> <p>精神 1 精神 2 精神 3 精神 4 1 日目で得た情報の記載</p>
2 日目 8 時間	<p>受け持ち患者と適宜行動をともにする 情報収集(精神 1234- 患者理解記録用紙①②③④の観察の視点を参考に行う) 病棟の看護計画に沿った実践(患者理解・自己理解) 隔離室・身体拘束の見学(日程変更の可能性あり。適宜確認する)</p>	<p>行動制限について</p>	<p>精神 8- プロセスレコード</p> <p>隔離・身体拘束を見学しての学び・感想 (A4 用紙 400 字以上)</p> <p>精神 1 精神 2 精神 3 精神 4</p>
3 日目 8 時間	<p>情報収集 ・関わりを通して、受け持ち患者の理解を深める ・プロセスレコードを通して、自己理解を深める 病棟の看護計画に沿った実践(患者理解・自己理解)</p>	<p>①なぜその患者を受け持ちたいと思ったか? ②その患者について気になること(各実習病棟でミニカンファレンス)</p>	<p>精神 8- プロセスレコード 精神 1 精神 2 精神 3 精神 4 精神 5- 患者の全体像 1</p>
4 日目 8 時間	<p>情報収集 病棟の看護計画に沿った実践(患者理解・自己理解)</p> <p>看護の方向性に沿った実践(患者理解・自己理解・治療的人間関係技術)</p>	<p>①患者はどのような人であると感じたか? ②患者はどんなことに困っていると感じたか?</p> <p><中間カンファレンス> 1. 患者の全体像の理解と看護の方向性について検討</p>	<p>精神 8- プロセスレコード 精神 1 精神 2 精神 3 精神 4 精神 5- 患者の全体像 1 中間自己評価 ・安全に関する体験報告書</p>

		<p>①実習での自分の関わり ②自分の関わりが、患者にとってどのような意味があったのか ③他者の報告に自分の体験を重ね合わせる 以上の3つのポイントを入れて意見交換する。</p>	
5日目 8時間	情報収集 看護の方向性に沿った実践（患者理解・自己理解・治療的人間関係技術）	安全について（日程変更の可能性あり。適宜確認する）	精神5-患者の全体像1（追加修正） 精神1 精神2 精神3 精神4 精神8-プロセスレコード
6日目 8時間	看護の方向性に沿った実践（患者理解・自己理解・治療的人間関係技術）		精神5-患者の全体像1 精神8-プロセスレコード
7日目 8時間	看護の方向性に沿った実践（患者理解・自己理解・治療的人間関係技術）		精神1234-患者理解記録 精神6（最終カンファレンス資料） 精神8-プロセスレコード
8日目 8時間	看護の方向性に沿った実践（患者理解・自己理解・治療的人間関係技術）	最終カンファレンス	精神8-プロセスレコード 精神6 精神7
9日目 8時間	看護の方向性に沿った実践（患者理解・自己理解・治療的人間関係技術） テーマカンファレンス終了後、ストレスケア病棟の見学	テーマカンファレンス病棟の最終カンファレンスで、精神看護の役割について考えたことをグループで統合させ深めていく	精神8-プロセスレコード 精神7 テーマカンファレンス資料（A4用紙1枚） 実習自己評価（最終）

6. 学内実習展開

目的：臨地実習の目的・目標を理解し、学びを深めるために必要な基本的知識や技術の習得を目指す

時期：①臨地実習前 ②臨地実習後

日程	時間	内容	技術内容
学内①	2時間	領域別実習オリエンテーション *3年次または4年次の履修対象者別に共通で行う	なし
学内②	6時間	受け持ち患者を通して、治療的人間関係技術・倫理をテーマとしたリフレクション	なし

7. 実習展開上の留意点

1) 事前学習について

内容	提出期限
<p>①シュヴィング著「精神病者の魂への道」を読み、どのような関心の向け方や対応が安心感を届けることになると理解したか、著書に表現されている「患者との関わりの場面」を提示し、看護師と患者の相互作用について、理解できたことを述べよ。(A4用紙1枚 1000字以上) 本の貸し出しは担当教員へ</p> <p>②今までの看護学実習を振り返って、「自分の傾向」と実習中に「できたこと・できなかったこと」を明確にし、精神看護学実習で学びたいこと、自分の課題について整理する。特に、人間関係技術(上記①の学びを入れて)に焦点をあてて述べよ。(A4用紙1枚 1000字以上)</p> <p>③隔離・身体拘束について、学習し理解できたことを述べよ。(A4用紙枚数規定無し)</p> <p>④統合失調症、感情障害、入院形態、防衛機制、精神症状について学習する。(実習初日に知識確認テストを行い、実習評価の対象とする)</p> <p>⑤教科書『精神看護の展開』の第8章「ケアの人間関係」第9章「回復を支援する」第10章「安全をまもる」の部分を読んでくる。</p>	<p>実習が3年次の学生は夏期休暇終了後、4年次の学生は春期休暇終了後の指定期日までに①～③を提出する。 ④⑤についてノートを作成した場合、実習ファイルの学習レポートのところに挟んでおく。</p>

2) 受け持ち患者について

原則として統合失調症、うつ病、身体症状症(身体表現性障害)、非定型うつ病などの診断を受けており、病状が安定している患者(病棟の入院患者状況による)

3) 実習記録

- (1) 実習記録は実習開始前に提出用ファイルに綴じ、教員、実習指導者（教員不在時）に提出する。
- (2) 実習記録の提出がない場合は実習中断となることがある。
- (3) 実習ファイルは臨地実習最終日に教員に提出するので、事前に準備しておく。

実習ファイルの綴じ方：①行動計画表

- ②精神 1・2・3・4- 患者理解記録用紙①・②・③・④
- ③精神 5- 患者の全体像 1
- ④精神 6- 患者の全体像 2
- ⑤精神 7- 最終カンファレンス資料
- ⑥精神 8- プロセスレコード
- ⑦学習レポート

（事前学習、知識確認テスト、隔離・身体拘束を見学しての学び・感想、レクリエーション企画書などを含む）

- ⑧実習評価表（綴じずにファイルの1番前にはさむ。穴はあけない）

の順序に綴じ、インデックスを使用し見出しを付ける

※安全に関する体験報告書は、実習ファイルに綴じない（教員に提出）

4) 学生レクリエーション

レクリエーションを実施する時は中間カンファレンスまでに教員・実習指導者にレクリエーション企画書（A4用紙）を提出し、助言を受ける。

必要物品の購入はすべて学生負担である。（病棟レクリエーションを兼ねる場合は一部補助あり）

レクリエーション企画書	
	学生氏名〇〇、△△、□□
1. 「タイトル」患者さんがぜひ参加したいと思わせるようなもの	
2. 目的	
3. 日時（タイムスケジュールを含む）	
4. 場所（会場配置図）	
5. 対象者	
6. 必要物品	
7. 費用	
8. 目的を達成するための根拠を明確にした内容・方法（役割）・留意点	
9. レクリエーションにより予測される危険と対策	

5) その他の注意事項

(1) 鍵について

鍵は1人1つ責任をもって管理する。

鍵を受け取る時

- ①朝、病院1Fの守衛室で鍵カード（鍵をお借りします）を提出して鍵を借りる。
- ②鍵を借りる時は病院のファイルに時間、学生氏名を記入する。
- ③病院職員から鍵を受け取る時は鍵が指定数あることを必ず確認する。

鍵を返す時

- ①実習を終えて帰る時には鍵が指定数あることを必ず確認する。
- ②病院1Fの守衛室に鍵を返して鍵カードを受け取る。
- ③鍵を返す時は病院のファイルに時間、学生氏名を記入する。

実習中

- ①鍵は白衣のベルトに通し、ポケットに入れる。
- ②閉鎖病棟のドアを開ける時は周囲に人がいない状態で開ける。病棟入口付近に患者がいる場合、無理にドアを開けず、インターホンを押し、スタッフにドアを開けてもらう。
- ③閉鎖病棟のドアを開けた場合は確実に施錠されたか確認する（目・耳・手）。
- ④学生の出入りの時のみ鍵を使用する。患者や家族などに頼まれてもドアを開けず、スタッフにそのことを報告する。
- ⑤病院外に鍵を持ち出さない。病棟レクリエーションなどで病院外へ出る際は、5階学生控え室の貴重品ロッカーで管理する。
- ⑥作業療法に付き添うなど、長時間病棟から離れるときは、同じ病棟で実習しているメンバーに鍵を預けていく。その際、鍵の所在を明確にしておく。
- ⑦教員が指定した通路以外は通らない。
- ⑧鍵を紛失した場合は看護課長・主任・実習指導者・スタッフと教員にただちに報告する。鍵を弁償してもらうことがある。
- ⑨鍵・鍵カードを誰が管理しているのか、常に明確にしておく。
- ⑩鍵カードを所持したときは、実習ファイルに入れて管理する。

(2) 服装

- ①通学は動きやすい華美でない服装と靴（ヒールのある靴、サンダルは禁止）とする。
- ②実習中は学校指定の白衣を着用する。病棟レクリエーションなどで病院外に出る際は私服に着替える。
- ③ハサミなどの危険物となりうるものは、ポケットの中に入れていない（病棟に持ち込まない）。

(3) 暴力やセクハラを受けないために

- ・患者にとって学生は環境の一要因であり、実習中にデイルームや廊下などで学生だけがかたまって会話をしていると患者に恐怖心をもたれてしまう可能性があるため、十分に配慮する必要がある。万が一暴力やセクハラを受けた場合、直ちにその日の実習指導者と教員の両方に報告する。

精神看護学実習 ルーブリック

	評価規準	キーワード	評価資料	評価基準 (尺度)			
				S	A	B	C
実習目標 1	精神疾患・障害のある患者(対象)を理解するとともに自己理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> 基礎情報を収集する 精神疾患・障害のある患者とのコミュニケーション 発達段階、発達課題 発症の契機 症状と病態 治療(薬物・リハビリテーション) 対象の人となり 対象のニーズと課題 自己の考え方 自己の感情 自己一致 	対話 観察 報告内容 カンファレンス 記録用紙	基礎情報を基に、看護職者との実践や対象とのコミュニケーションから対象を理解することができる。自己の感情を知り、自己一致させながら援助的関係を発展させることができる。	基礎情報を基に、看護職者との実践や対象とのコミュニケーションから対象を理解することができる。自己の感情を知り、自己一致させながら援助的関係を発展させることができる。	基礎情報を基に、看護職者との実践や対象とのコミュニケーションから対象を理解しようとするが、一部不十分である。自己の感情を知り、自己一致させながら援助的関係を考察しながら実践できる。	基礎情報を基に、看護職者との実践や対象とのコミュニケーションから対象を理解しようとするが、不十分である。自己の感情に気づくがそれを援くための活用ができない。
実習目標 2	関わりを通して自己理解を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患・障害のある患者とのコミュニケーション 自己の考え方 自己の感情 自己一致 プロセスレコード 	対話 観察 報告内容 カンファレンス 記録用紙	自己の感情を知り、自己一致させながら援助的関係を発展させることができる。自己が対象に与える影響を考慮し、課題を明確にして解決に向けて努力することができる。	自己の感情を知り、自己一致させながら援助的関係を発展させるよう努力できる。自己が対象に与える影響を考慮し、課題を明確にして解決に向けて努力することができる。	自己の感情を知り、自己一致させながら援助的関係を考察しつづつ実践することができる。自己の傾向を振り返り、課題を見いだしていくことができる。	自己の感情に気づくがそれを援くための活用ができない。自己の傾向を振り返ることができるが、不十分である。
実習目標 3	対象の健康状態をアセスメントし、日常生活上必要な援助や診療の補助を見学または実施できる	<ul style="list-style-type: none"> 対象の状態をアセスメント 主体性 自律性 	対話 看護実践 カンファレンス	日々の関わりを通して対象のニーズを理解し、対象の主体性としながら日常生活援助や治療に関わり、援助することができる。	日々の関わりを通して対象のニーズを理解し、対象の主体性としながら日常生活援助や治療に関わり、援助することができる。	日々の関わりを通して対象のニーズを理解し、対象の主体性としながら日常生活援助や治療に関わり、援助することができる。	日々の関わりを通して対象のニーズを理解しようとするが不十分である。対象の主体性としながら日常生活援助や治療に関わり、援助することが不十分である。
実習目標 4	患者-看護師関係における治療的関係が実践できる	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なコミュニケーション技術の実践 主体性と自律性 共感的理解 プロセスレコード 自己一致 	観察 対話 看護実践 カンファレンス	基本的コミュニケーション技術の実践ができ、関わりのプロセスをケアとして評価できる。プロセスレコードを活用しながら治療的関係技術を実践することができる。	基本的コミュニケーション技術の実践ができ、関わりのプロセスをケアとして評価できる。プロセスレコードを活用しながら対象と関係技術の実践に繋げようとする努力ができる。	基本的コミュニケーション技術の実践ができ、関わりのプロセスをケアとして評価できる。プロセスレコードを活用し、振り返りながら対象と関わりができる。	基本的コミュニケーション技術の実践ができ、関わりのプロセスをケアとして評価できるが不十分である。プロセスレコードを活用した関わりが不十分である。
実習目標 5	精神看護における倫理と観を培うと、その役割を考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患患者の人権擁護の視点 精神保健福祉法 行動制限 隔離・拘束の必要性 隔離・拘束の身体的、精神的影響 リスクマネジメント 	観察 対話 カンファレンス 記録内容	人権・隔離・拘束について自己学習できる。常にリスクマネジメントの視点で観察や援助を行うことができる。また、精神障害者の人権擁護のための法律と制度の実際を理解し、さらに体験や見学によって得られた学びを自己の意見として述べるることができる。	人権・隔離・拘束について自己学習できる。リスクマネジメントの視点で観察や援助を行うことができる。また、精神障害者の人権擁護のための法律と制度の実際を知り、さらに体験や見学によって得られた学びを自己の意見として述べることができる。	人権・隔離・拘束について自己学習できる。リスクマネジメントの視点で観察や援助を考察することができる。また、精神障害者の人権擁護のための法律と制度の実際を知り、さらに体験や見学によって得られた学びを自己の意見として述べることができる。	精神を病む人の「人としての尊厳を尊重する」ケアについて考察や見学によって得られた学びを自己の意見として述べることができる。
実習目標 6	地域生活移行に向けたチーム医療とその役割を考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 精神看護におけるチーム医療とその役割 社会資源 	対話 カンファレンス 記録内容	精神看護におけるチーム医療の役割を理解することができる。対象の退院に向けて必要な社会資源を見いだすことができる。	精神看護におけるチーム医療の役割を考えることができ、対象に向けて必要な社会資源を見いだすことができる。	精神看護におけるチーム医療の役割を考えることができるが、対象に必要な社会資源についての考察が不十分である。	精神看護におけるチーム医療の役割を考えているが、対象に必要な社会資源について考察できていない。

精神看護学実習 評価表

学籍番号 _____ 氏名 _____

実習施設（病棟） _____

実習期間（臨地） 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日（ ） ～ _____ 月 _____ 日（ ）
 （学内） _____

出席時間数（実質時間） _____ 欠席時間数（実質時間） _____

総括的評価

*中間評価はなし

学習活動における評価規準項目		自己評価（最終）	指導者・教員評価
実習 目標	1 精神疾患・障害のある患者（対象）を理解するとともに自己理解を深める	S・A・B・C	S (16)・A (13)・B (10)・C (5)
	2 対象の健康状態をアセスメントし、日常生活上必要な援助や診療の補助を見学または実施できる	S・A・B・C	S (16)・A (13)・B (10)・C (5)
	3 患者－看護師関係における治療的人間関係技術が実践できる	S・A・B・C	S (16)・A (13)・B (10)・C (5)
	4 精神看護における倫理観を養うとともに、その役割を考えることができる	S・A・B・C	S (16)・A (13)・B (10)・C (5)
	5 地域生活移行に向けたチーム医療とその役割を考えることができる	S・A・B・C	S (16)・A (13)・B (10)・C (5)
態度	6 互いに自律し、尊重し、支え合いながら、人間関係を構築・発展できる	S・A・B・C	S (3)・A (2)・B (1)・C (0)
	7 看護師を目指すものとして、心身の健康を自己管理できる	S・A・B・C	S (3)・A (2)・B (1)・C (0)
	8 看護師としての責務を自覚し、対象の意思決定を支え、倫理的な判断を基に看護を実践できる	S・A・B・C	S (3)・A (2)・B (1)・C (0)
	9 チームの一員であることを自覚し、行動に対する責任を持つことができる	S・A・B・C	S (3)・A (2)・B (1)・C (0)
	10 自らの課題を見出し、学び続けることができる	S・A・B・C	S (3)・A (2)・B (1)・C (0)
課題ポートフォリオ 達成度評価（学生）		点/5点	
学習活動における評価（指導者・教員）			点/95点
*実習成績：秀（とても優れてできる）90点以上、優（優れてできる）89点～80点以上、良（できる）79点～70点以上、可（不十分さを残すができる）69点～60点以上、不可（できない）60点未満			合計点 点/100点
評価者	実習指導者 _____ 担当教員 _____		実習成績

<p>目的・意義・効果</p> <p>本講義の目的は、学生が「人権」の概念を正しく理解し、その重要性を認識し、実践的に行動できるようにすることである。</p>		
<p>到達目標</p> <p>1. 人権の定義と歴史を説明できる。</p> <p>2. 人権の重要性を説明できる。</p> <p>3. 人権を侵害する事例を説明できる。</p> <p>4. 人権を擁護する方法を説明できる。</p>		

<p>目的・意義・効果</p> <p>本講義の目的は、学生が「人権」の概念を正しく理解し、その重要性を認識し、実践的に行動できるようにすることである。</p>		
<p>到達目標</p> <p>1. 人権の定義と歴史を説明できる。</p> <p>2. 人権の重要性を説明できる。</p> <p>3. 人権を侵害する事例を説明できる。</p> <p>4. 人権を擁護する方法を説明できる。</p>		

<p>目的・意義・効果</p> <p>本講義の目的は、学生が「人権」の概念を正しく理解し、その重要性を認識し、実践的に行動できるようにすることである。</p>	<p>到達目標</p> <p>1. 人権の定義と歴史を説明できる。</p> <p>2. 人権の重要性を説明できる。</p> <p>3. 人権を侵害する事例を説明できる。</p> <p>4. 人権を擁護する方法を説明できる。</p>	<p>到達目標</p> <p>1. 人権の定義と歴史を説明できる。</p> <p>2. 人権の重要性を説明できる。</p> <p>3. 人権を侵害する事例を説明できる。</p> <p>4. 人権を擁護する方法を説明できる。</p>
--	--	--

<p>目的・意義・効果</p> <p>本講義の目的は、学生が「人権」の概念を正しく理解し、その重要性を認識し、実践的に行動できるようにすることである。</p>		
<p>到達目標</p> <p>1. 人権の定義と歴史を説明できる。</p> <p>2. 人権の重要性を説明できる。</p> <p>3. 人権を侵害する事例を説明できる。</p> <p>4. 人権を擁護する方法を説明できる。</p>		

<p>資料1-1 意見の発表①</p> <p>(1) 意見を述べた理由を詳細に述べよ (理由が明確であること、意見が明確であること)</p>	<p>意見発表の経緯</p>
<p>(2) 意見の発表が目的に達したかどうかについて、理由を述べよ</p>	<p>(3) 意見発表後に、どのような活動を行ったか</p>

資料1-1 意見の発表② (自分持った意見について意見を述べたこと、理由)

<p>意見発表の経緯</p>

資料1-2 意見の発表③

(1) 意見発表の経緯を詳しく述べよ。理由が明確であること、意見が明確であること

(2) 意見発表後に、どのような活動を行ったか

<p>資料1-2の意見の発表③ 理由が明確であること</p>	<p>意見発表の経緯</p>	<p>意見発表の経緯</p>
<p>資料1-2の意見の発表③ 理由が明確であること</p>	<p>意見発表の経緯</p>	<p>意見発表の経緯</p>

